

さまざまなイベントで燃えた夏も終わりに近づいています。残暑はまだきびしいですが、秋には新企画も登場します。どうぞご参加ください。

お知らせ

- ・ 益子陶芸作品展示即売会 9月1日(土)～3日(月) 草志舎
- ・ アメニティ・アカデミー「ヴォーリズ建築再見」9月8日(土) 関西学院
- ・ コウノトリの郷との交流 9月15日(土) 豊岡市
- ・ 園遊会 9月29日(土) ヴォーリズ六甲山荘
- ・ アメニティ・アカデミー 第Ⅱ期セミナー第1回 10月13日(土) 草志舎
- ・ ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク全国大会 10月20日(土) 関西学院
- ・ 町並み研究会 10月25日(木)～27日(土) 東北
- ・ ほりだし市 11月3日(土・祝) 草志舎

予告1**町並み研究会～旅のチカラで東北を元気に～**

下のコラムで谷本さんが案内しておられるとおり、東北への旅を企画しました。

東日本大震災以来アメニティ 2000 協会は被災者支援活動を展開していますが、一度被災地を訪問したいという希望から今回の企画となりました。石巻市では復興しつつある商店街を地元の方の案内でまわります。地元の物産をお買い物。ささやかではありますが、産業復興に貢献しましょう。

喜多方が蔵の町であることは有名ですが、山形市も会津若松も歴史を語る建築がたくさん残っています。それらを訪ねて、懐の深い街の歴史をあじわいましょう。

秋は紅葉で東北がもっとも美しく装う季節。担当の谷本さんが現地に何度も確認して、見頃の時期を選びました。復興の姿、歴史、錦繡をたどる旅にぜひ一緒しましょう。

月日 10月25日(木)～27日(土) 2泊3日

参加費 会員 50,000円 一般 55,000円 定員 25名

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

【コラム】**旅のチカラで東北を元気に**

谷本 雅憲

町並み研究会・東北編として、10月25日(木)～27日(土) 2泊3日の旅を予定しています。

《錦秋の東北路を巡る旅》のポイントとしては、

- ① 石巻市の被災状況・復興状況の視察、地元とのエール交換。
- ② NHK大河ドラマ「おしん」に登場した尾花沢・銀山温泉に宿泊。
- ③ 山形市の国重要文化財指定の文翔館(旧県庁)、済生館の見学。
- ④ 紅葉真っ盛りの磐梯吾妻スカイラインで秋彩を堪能。
- ⑤ 2日目の宿は、山間の旧下野街道の宿場「大内宿」の民宿。
- ⑥ 蔵と蕎麦とラーメンの町・喜多方市見学。
- ⑦ 白虎隊で有名な会津若松市散策。(来年のNHK大河ドラマ「新島八重子」の生誕地でもあります。



山形市済生館

今回の旅のテーマは、『旅のチカラで東北を元気に』です。昨年来被災者支援活動をいろいろと行ってきましたが、ぜひ被災地に自ら行ってみたいという希望を実現することになりました。現地にてかけるのも支援のひとつです。どうぞこの機会に秋の東北路をたどってみましょう！

予告2 <アメニティ・アカデミー> **セミナー「読み解く心を育む」開講**

好評のうちに終了を迎える第Ⅰ期のセミナーにつづいて、アメニティ・アカデミーの第Ⅱ期のセミナーをつぎのように開催します。今回は当協会の理事、監事の方々に講師にお招きして、「読み解く心を育む」というテーマで、第一線で活躍しておられるそれぞれのお仕事から見える文化や社会の姿について、お話しを伺います。

受講料：第2期5回分 会員 7,500円 一般 10,000円
一部参加 1回 会員 2,000円 一般 2,500円
会場：草志舎 定員：30名（定員に達し次第締切ます）

- 第1回 10月13日（土）講師：宮田満雄（理事、元関西学院院長・当アカデミー院長）
第2回 11月10日（土）講師：畑儀文（理事、音楽家）
第3回 12月8日（土）講師：正司泰一郎（理事、元宝塚市長）
第4回 2月9日（土）講師：山田康子（監事、弁護士）
第5回 3月9日（土）講師：島田恒（監事、経営学者）

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

予告3 コウノトリ郷との交流

先月号でもご案内しましたが、コウノトリの郷である豊岡で。農業体験をします。コウノトリ育む農法の田んぼで稲刈りをして、おいしいお米の昼食を食べ、午後はコウノトリ文化館を訪問します。

月日 9月15日（土）
場所 豊岡市立地域農業管理施設
参加費 1,500円

日本の原風景ともいえる豊岡の郷にでかけましょう！

予告4 園遊会

今年の園遊会は9月の末、ヴォーリズ六甲山荘で開催します。音楽演奏は久しぶりのQJQカルテットにお願いしました。

日時 2012年9月29日（土）午前10時半～午後3時半
出演 QJQカルテット（2回公演）
参加費 会員1,000円 一般1,500円（コーヒー/紅茶+ケーキつき）
ランチ 石窯ピザとサンドイッチの盛り合わせ（700円）要予約

また当日は大勢のスタッフが必要です。こちらもよろしくお願いたします。

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

ケーブル山上駅の案内DVDにご注目！

六甲山への玄関口のひとつ、ケーブル山上駅に植物園や牧場などの山上施設の紹介画面があります。今回そこへヴォーリズ六甲山荘の紹介が加わりました。山崎忠厚さんが制作してくださったものです。5分強のあいだ山荘へのアプローチ、外観、内部、周辺の自然等、山荘の魅力をたっぷりお見せして、お客をお誘いする内容です。ケーブルに乗られるときはどうぞDVDにもご注目ください。

スコットランド ナショナルトラストの旅～団長報告

長崎 俱久

私たちアメニティ2000協会の参加者18名は2012年6月、スコットランドのナショナルトラスト9か所を訪ねました。最初の訪問地グラスゴーでは宗教改革の破壊や、産業革命の大変貌にも耐えた12世紀建築、グラスゴー大聖堂のあと、ナショナルトラスト（以下NTと略）最初の訪問先ポロックハウスを見学しました。エドワード王朝様式のカントリーハウスは建物も庭園も左右対称に作られています。つづいて、イギリスの代表的デザイナー、マッキントッシュがデザインしたヒルハウス（グラスゴーの西、ヘインズバラのNT）見学ですが、それに先立ち、彼が設計したグラスゴー美術学校を見学し、マッキントッシュ芸術の特徴などについてレクチャーを受けました。ヒルハウスを後にし、ハイランド地方の都市フォート・ウィリアムまで、ローモンド湖西岸、千メートル級の山系からなるU字谷グレンコーを通過して140

キロを一気に北上です。

3日目、宿近くには山岳地帯の湖を結ぶカレドニアン運河があり、漁船が水門を通過する仕掛けを興味深く見物しました。フォート・ウィリアムから鉄道で映画『ハリイ・ポッターと秘密の部屋』に登場する世界最古のコンクリート高架橋を渡ってグレンフィナンまでの小旅行で、蒸気機関車ジャコバイト号車内はまるで遠足のような騒ぎでした。後述のジャコバイト軍蜂起の地、グレンフィナン・モニュメント (NT) からのシーエル湖の眺めを堪能した後、100キロ北インバネスを目指します。途中、伝説のネス湖クルージングと、湖畔のアーカート城廃墟の散策を楽しみ、ネス川河口の街インバネスに到着しました。



ヒルハウス

4日目はまずカロードンの戦場跡を見学。スコットランド王権奪還を期すジャコバイト軍がイングランド軍に惨敗した戦場です。この戦い以後、スコットランドが急速にイングランド化したスコットランド史のターニングポイントとなった因縁の地です。古戦場の墓標に刻まれたクラン (氏族名) を見ながらの散策は感慨深いものでした。つづく見学はコーダー城。マクベスの舞台として知られるこの城ではマッキントッシュがデザインに取り入れた建築上の構造が多く見られました。

庭園には美しい草花が咲き小鳥達がさえずっていました。民間の手で保存されている NT に対し、政府系保存組織ヒストリック・スコットランドに委ねられたこの城の事情など、プロパティー保存形態の違いを知りました。スコットランド NT の4番目の訪問は16世紀建造のプロディー城です。茶色に塗装した漆喰の天井細工が木製に見えたのが印象に残ります。この日の最後はスコッチウイスキー蒸留所での一息。試飲のウイスキーは爽やかで、甘党にも飲み心地良いものでした。

5日目はまず、ブレア城見学と領内にあるブルー滝を目指すトレッキングです。2キロ近いアップダウンの多い周回コースでしたが、シャクナゲの咲く森、清流、滝を楽しく巡りました。ブレア城では広大な領地のエントランスから続く菩提樹の美しい並木に歓声が上がりました。13世紀に建てられた白い城の外観や、内部の壁いっぱい飾られたアンティークな武器類が壮観でした。正装した若い私兵のバグパイプの演奏も格調高く感じました。この後、バスは狭い山道を対向車に苦



ジャコバイト号から高架橋を見る

労しながら走り、クイーンズビューに到着しました。眼下に広がるタンメル湖の眺望が素晴らしく、晴天ならばヴィクトリア女王の気分ひたれたことでしょう。次なる訪問地は古都ダンケルド。NT が修復を手掛けた街並みです。テイ川の畔に建つ大聖堂と緑の広場も素敵でした。このあとバーナムを経てパースのマナーハウスに投宿しました。全員が装い、添乗員さん、ガイドさん、運転手さんをまじえ、ディナーを頂きました。

6日目、エディンバラに向けて出発です。途上 NT ブランクリン庭園一杯に咲く花を觀賞しました。次に訪れたドラモンド城はベルサイユの庭を想起させるイタリア形式も取り入れたスケールの大きな庭園でした。このあと到着した小雨と霧のエディンバラでは、カールトンヒルから小雨に煙るエディンバラ城と街の全景を見渡しました。ホリルードハウス宮殿とホリルード修道院を見学し、旅の最後の宿に入りました。

7日目も雨。この日は3つの NT 訪問です。グラッドストーンランド (NT) は400年前のオールドタウンのアパートで、次に訪れた300年前に開発されたニュータウンのアパート、ジョージアン・ハウス (NT) とともに、間取りや調度から、当時の間借り人の生活の一部を垣間見ました。最後の NT 訪問地はマレニー・ガーデンでしたが、花々も私達も雨に打たれ、スコットランドの6月ならではのフィナーレとなりました。

《お薦めの本》

遠藤周作著 「おバカさん」

奥田 猛

グウタラ青年・隆盛のところへ突然「ナポレオン」の末裔のガストン・ボナパルトが現れて行く先々で珍事をまき起こしていく、カトリック信者であった作者のテーマをベースにしたユーモア小説です。

馬のような風貌のこのフランス人は臆病で無類のお人好し、人々の心を温かくするのです。弱いもの、可哀そうな人にばかり関心を示し、野良犬にナポレオンと名付け、売春婦を助け、兄の復讐の為にだけ生きている男を「殺人はイケナイ事」と説得しようとする。他人のために奔走するが報いられず、他人のために泣いてばかりいる「おバカさん」人間はみんなが美しく強い存在とは限らないよ。生まれつき臆病な人もいる。弱い性格の者もいる、メソメソした心の持ち主もいる……。けれどもね、そんな弱い臆病な男が自分の弱さを背負いながら、一生懸命美しく生きようとするのは立派だよ。

「素直に他人を愛し、素直にどんな人も信じ、騙されても、裏切られてもその信頼や愛情の灯を守り続けていく人間は、今の世の中ではバカに見えるかも知れぬ。だが彼はバカではない……。おバカさんなのだ。自分の人生の灯した小さな光をいつまでも絶やすまいとするおバカさんなのだ。このくだりが作者の言わんとするところなのだろう。

ガストンの行動、考え方はイエス・キリストを彷彿させますが、今の時代では殊更難しい生き方だと思います。一方今の時代が最も必要としている生き方かもしれません。

この小説は40年ぐらい前に読んだのですが、人間の優しさについて改めて考えさせられる非常に印象深い作品の1つです。(角川文庫)

◇◆◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

マリimba with ピアノ コンサート

亀田 絹

7月21日朝は晴れていたのに昼過ぎどしゃぶりの雨になりました。コンサート会場の芦屋仏教会館は、吹き抜けの高い天井や木製の長机・椅子の並び方も教会の雰囲気をもつ趣のある佇まいの建物でした。拍手の中、マリimba奏者安永早絵子さんとピアノの城村奈都子さんがお二人が壇上に元気よく登場されて、木琴楽器について、分解してコンパクトに折り畳んで運べること、叩くパチ(マレット)に毛糸を巻くと音色が違ってくること、今では百本以上持っていることなどをお話しされました。プログラムは、“G線上のアリア”で始まりまして。外では時折雷鳴も轟きましたが、いつの間にかすっかりコンサートに引き込まれました。次は、“道化師のギャロップ”。安永さんの考える木琴用の三大音楽曲がこの“道化師のギャロップ”と“剣の舞”どちらも運動会の定番曲。3つ目は“NHK のきょうの料理”だとか。木琴の温かい音色がとてもいい感じで、なるほどと納得しました。マリimba体験コーナーでは会場から3名が参加し初めてとは思えない出来に拍手しました。後半は、大小二つの太鼓がセットになったボンゴ。木の箱の側面に丸い穴の開いたカホン。棒でこすってギーチャチャと鳴らすギロなど様々な打楽器が登場。“パイナップルラグ”では、お鍋やぬいぐるみ・牛の鳴き声を出すおもちゃみたいな楽器なども登場。リズム追いかけてこのコーナーでは、客席のみんなも手拍子でリズムを追いかけて楽しんでました。最後の“エル・クンバンチェロ(太鼓をぶったたけ)”では、拍手する手が痛くなるくらいに盛り上がりました。音を鳴らすのは楽しいよというメッセージ満載の素敵な演奏会でした。ありがとうございました。



アメニティ・アカデミー第4回「ヴォーリズの問いかけに答える(その2)(講師 石田忠範氏)に参加して

市川 武

資料(序言)によると、ヴォーリズは

- ◎ 将来、理想的建築物の完成されるためには猶一、二世紀の時日を待たなければならないが、現在焦眉の急を要する日常生活の使用に対して、住心地のよい、健康を護るによい、能率的建物を要求する熱心なる建築依頼者の需に応じて、吾々はその意をよく汲む

奉仕者となるべきである。

- ◎ 建築物の品格は、人間の品格の如く、その外装よりも寧ろ内容にある。
- ◎ 建築は芸術と科学の総合よりなるものである。それ故、耐震・防火・衛生・室内空気調整等々、建築上の設計や工学上の相談の一切を一人の技師より期待せんとするは、現代の如き分業化した時代に於ては、不合理のことである。唯一の解決策と思はるるものは、いつも統制のとれた団体で、必要な専門家達が、各自の専門の受持を担当し、又専門家同士の相互扶助をなしうる建築事務所を設けるより外はないと思ふ。

こんな講義が終るとスライドの上映が始まった。特に今は姿を消した神戸市須磨区の室谷邸の震災時の姿が写された時には、壊れのひどい所にはとてもカメラを向けられなかったというコメントをされた。胸にせまる言葉であった。そして、解体された室谷邸のレンガの破片を二つ会場の参加者に回覧された。そして、次にはこれも神戸市東灘区の小寺邸の姿も登場した。この時、理事長の許しをえて、わが六甲山荘に保管されている小寺邸の屋根瓦を皆に見て頂いた。その他いろんな設計図やお邸の写真を見せて頂いたが、私には上記2軒のお屋敷は身近に観た事もあって心に深く残った。

講義があつてから1月程して、山陽電車に乗って室谷邸の跡地へ行ってみた。跡地には六階建のマンションが建っていた。南側のお庭のあった所は駐車場になっており、とても直視するには耐えられずマンションを一周して帰ってきた。山陽電車月見山駅から電車に乗り、阪急電車に乗り換えて御影駅で下車して、小寺邸の跡地へも行ってみた。50坪ほどの敷地が9区画で、1区画5千万円位で売りに出されている。半分位は売れたと販売員の担当が言っていた。まだ1軒も家は建っていなかった。帰り道に同じ住吉山手の住宅地の元乾邸の修復現場をのぞいてみました。

ガードマンに聞いたところ、現在屋根瓦の修復工事をやっていると言っていた。元乾邸は残って、もう少しすると見ることができる。楽しみに住吉山手のお屋敷道を下ってきた。空でゴロゴロと雷が鳴っている。急いで帰らないと雨におそわれそうで急いで下りた。



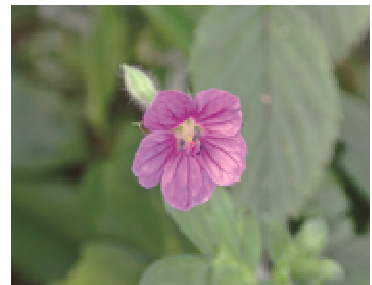
夏は六甲山荘の持ち味が一番発揮される時期です。開け放った窓から涼しい風が通り抜けて、ヒグラシの声が聞こえ、下界の暑さを忘れます。お客さまも山荘の時間を満喫するようにゆっくり過ごしていかれます。

ほりだし市への出品のお願い

11月3日（土・祝）に恒例のこだわり工房ほりだし市を開催します。
皆さんからの出品をお待ちしています。
アクセサリーのリサイクル、手作りの食品、手芸品などなど、およせください。

ヴォーリズ六甲山荘の花～ゲンノショウコ

日本全国の山野や道端で普通に見られる多年草で、夏から秋にかけて花をつけます。花は白から赤紫まであるそうです。地上部を干すと健胃整腸剤として古くから使われていてその効き目の良さから「現の証拠」と呼ばれるようになりました。可憐なかわいい花ですが、そんな能力を秘めているのですね。



写真・岡本正美